

## 山口つよし議員 3 期目を始動!

5 月 17 日福岡市議会の臨時議会が開会し、正副議長と監査委員が選挙され決定致しました。

副議長に大石 修二氏(公明)が選任され、監査委員に川辺敦子氏(公明)が選任されました。

常任委員会で、山口つよし議員は第 5 委員会に所属しました。環境局・道路下水道局・水道局が所管です。安心のまちづくりのため今後も全力で取り組んでまいります!



## 福岡市立こども病院の建設地 アイランドシティに決定!!

平成 23 年 5 月、高島宗一郎市長は「こども病院移転計画調査委員会」の報告書を受けて、移転新築の整備場所をアイランドシティに決定したと発表しました。今後、事業者から提案を受け防災面にも考慮した整備内容が決定し、平成 26 年 10 月頃の開業を目指します。(右)福重淳一郎院長の説明を聞く山口議員。新病院はヘリポートを設置し、手術室や NICU・集中治療室の面積確保と室数を増加して欲しいと改善要望されました。




整備場所  
東区香椎照葉  
(アイランドシティ)

**注目ポイント** **ここが変わる!**

小児医療・周産期医療の充実	
現こども病院	新病院
NICU (新生児集中治療室) 9床	→ 12床
PICU (小児集中治療室) 6床	→ 8床

小児医療のさらなる充実を図ります。また、産科を新設し、生まれてくる赤ちゃんに病気があると診断された妊婦を受け入れ、出産と同時に赤ちゃんに必要な治療を行える体制(周産期医療体制)を整えます。

施設の充実	
現こども病院	新病院
手術室 3室	→ 6室
1床当たりの床面積 73㎡	→ 100㎡

スタッフの充実	
現こども病院	新病院
医師 44名	→ 66名
看護師 171名	→ 389名


※平成21年12月現在の想定数です

診療科の増設	
現こども病院	新病院
17科目	→ 22科目

※新設予定の診療科  
総合診療科・脳神経外科・産科・皮膚科・歯科口腔外科

平成 22 年 5 月時点でのイメージパース

新病院は、ゆったり広々、緑あふれる癒しの空間

- A 病室**  
家族もつるぎるよう、広い病室を確保します。プライバシーを尊重し、個室を多く設けます。
  - B 患者家族用宿泊施設**  
現在5室 → 新病院10～20室  
遠方からのご家族のための宿泊施設。現在は希望どおりの宿泊ができない状況です。
  - C 駐車場**  
現在105台 → 新病院450台
  - D ヘリポート(新設)**  
遠隔地からでも迅速な搬送が可能になります。  
例えば、救急車なら約2時間かかる場合でも、ヘリコプターなら約30分で到着します。
  - E 敷地内バス停(新設)**  
敷地内にバス停を設置する予定です。雨の口でも濡れずに病院に入れるように工夫します。
  - F アイランドシティ中央公園**  
公園の広さはヤフードーム約4個分。自然豊かな公園に隣接し、良好な療養環境が確保できます。
- 



## 公明党福岡市議団が議会改革基本条例の制定を議長に申入れ

◆公明党福岡市議団は、6月16日、新たな議会の出発にあたり福岡市議会、森議長に議長のリーダーシップのもと議会改革の推進を求める「議会改革を論議する、然るべき協議機関の設置」の要望書を提出しました。

東日本大震災に対し、福岡市議会としても共に困難に立ち向かう具体的な姿を示すことが重要であると考え下記の4点にわたり提案しました。

### ①「福岡市議会基本条例」の制定

二元代表制である議会が執行機関の監視機能、政策立案機能が発揮するよう条例を制定する。

### ②議会権能を強化

「議会の招集権」の議長への付与、「通年議会」実施による議決事件の拡大を図る。

### ③議会の「見える化」を推進

本会議・委員会の公開、傍聴制度の充実。インターネットによる配信など公開を進める。

### ④議員報酬・政務調査費等の見直し

復興支援として当分の間、報酬を削減、政調費も議員活動の実態に即した新制度を設ける。



## 福岡市・水源祭に出席

◆山口議員は6月1日、福岡市・曲渕ダムで実施された水源祭に出席しました。

一級河川を持たない本市は毎年、水不足にならないよう酒注ぎ式を行っています。

曲渕ダムは大正時代に建設された、本市初の利水ダムです。貯水容量は2,368千 $m^3$ で福岡市民の5.8日分に相当します。本年も水不足にならないよう市民の皆様の節水へのご協力をお願い致します。



## 海水淡水化センターを視察

◆海水から1日最大5万トンの真水生産を行う福岡市東区・海の中道の海水淡水化センター「まみずピア」を視察しました。海水淡水化事業は、2005年度から福岡都市圏の慢性的な水不足を解消するため、公明党の国会議員と同都市圏の議員が連携して長年にわたり導入を提唱して実現しました。真水を採取した残りの高濃度海水は隣接する下水処理センターの水と混ぜて、海水濃度に合わせ、放流しています。

